

2020年10月2日(金)

那須高原山麓・横沢(栃木県)「アートビオトープ」に
完全独立型オールスイートヴィラと
レストランμ(ミュー)がグランドオープン



art biotope

アートをテーマに人々が集い、交感し合い、 コロニーを形成していく苗床「アートビオトープ」

アートビオトープは、自然と融合するリゾートという「二期倶楽部」(1986年～2017年)の思想を受け継ぎ、二期倶楽部創業者である北山ひとみのプロデュースにより計画されたものです。

アートビオトープレジデンス(旧「アートビオトープ那須」)は、二期倶楽部の創業20周年を記念した文化事業として、2007年にオープンしました。ア

ートをテーマに人々が集い、交感し合いコロニーを形成していく苗床となることを願ってつけられたものです。2018年、アートビオトープ敷地内にランドアート「水庭」(建築:石上純也氏)が完成。そしてこの度、スイートヴィラ(建築:坂茂氏)、レストランμ(ミュー)が加わり、全施設が整いグランドオープンする運びとなりました。



artbiotopは、来るべきアートのための小さな苗床です。

あらゆるものが親和して、ゆるやかに循環している、
一つの生命圏です。

陽光と、雨と、風と、熱と、冷氣と、

草木と、花と、木々と、果実と、

朝露と、夕べの静けさと、星をちりばめた夜空と。

ここでは、沈黙と孤独こそが、最上の贈与。

すべてが、分かち合うべき、生き物の獲り分です。

artbiotopで、思いきり耕してください、

じぶんの畑を、じぶんの手で。

スイートヴィラの設計を手がけたのは、日本を代表する建築家の一人、坂 茂氏。建築界のノーベル賞といわれるプリッカー賞を受賞、さらに2017年には広範な社会貢献事業が評価されて、日本人として初めてマザー・テレサ社会正義賞を受賞しました。奥行3メートルの大きなテラスを持つ完全独立型の14棟(計15室)のコテージは、敷地の両脇を流れる美しい溪流を間近で楽しめるように、緩やかな傾斜を持つ土地の形状を生かして配置されてい

ます。周囲には、敷地の造成中に出土した石を使用した擁壁も設けられ、火山である那須連山の山麓に広がるこの地の風土を表現しています。内装は杉材やタモ材を中心に木材を多用した、温かみのある空間となっています。

テラスに張り出すように設計されたバスルームは、あじろ扉を設けた開放感のある設計。各種用意されたハーブソルトを使用した温浴と共に外気浴が楽しめる設計となっています。



スイートヴィラ



レストランμ

ベッドエリアは、須藤玲子氏によるベッドボードと京都イワタの最上級のマットを使用。ゆったりと体を休めた翌朝には、テラスで楽しむモーニングバスケットをご希望の時間に合わせてお部屋にお届けします。ご朝食はレジデンス内のカフェ Kantan(現在営業中)での和朝食もお選びいただけます。レストランに併設されたライブラリーラウンジではハイティーサービスをご用意。午後の豊かなひと

時をお楽しみいただけます。

また長年に渡り「ギャラリー冊」(東京・九段下)を運営してきた経験をもとに、全ての客室内には、厳選された現代工芸や本を紹介する小さな展示空間「燦架(さんか)」を設置。オープンに際して、元大分県立美術館館長・武蔵野美術大学教授の新見隆氏の監修による「ゲーテの目、あるいは舞踊する庭」を特別展示します。

「シードからテーブルまで」をテーマに、 気鋭の若手、本岡将氏はじめシェフチームで構成した、レストランμ（ミュー）

レストランμ（ミュー）は、「シードからテーブルまで」をテーマに、栃木エリアの素材を中心にその可能性を追求します。

シェフは権威あるレストランガイド「ゴ・エ・ミヨ」2020年度版で「期待の若手シェフ」を受賞した気鋭の若手、本岡将氏はじめ、千葉拓海氏ほか、若手シェフチームで構成。

また、タイユヴァン・ロブション（現在のジョエル・ロブション）にてメートル・ドテルを務めた松木一浩氏が加わり、二期倶楽部「ガーデンレストラン」にて長年サービスを務めた室井雅之他、元二期倶楽部レストランスタッフがゲストをお迎えします。美しい木々の間から水庭を望む空間の中で、時を繋ぎ、五感を刺激するアートフードをご提供します。

訪れた人をイメージレーションに満ちた新しい世界へと導く、 アート&デザイン

エントランスには、陶芸家の近藤高弘氏による陶のオブジェを設置。これは、イサム・ノグチが晩年に愛用したことで知られる、伊達冠石が風化することによって生まれた大蔵寂土を素材とした世界初の陶芸作品です。これらの陶板は東北への入り口である那須の地を象徴すると共に、人の技と素材の力によって生まれる世界観を示しています。

またライブラリーラウンジの棚の中には、新見隆氏の製作した古今東西の作家や芸術家をモチーフとした人形が並び、心を揺さぶる美と戦慄の地平へと誘います。

施設全体のグラフィックを手掛けるのはデザイナー・原研哉氏。アートビオトープのロゴから敷地内サインはじめ各パンフレットツールなど担当。テキストは佐伯誠氏。客室に設置された「水庭」のコンセプトブックは、写真家・上田義彦氏による撮り下ろしです。

室内を彩るファブリックはテキスタイルデザイナーの須藤玲子氏が、一服の茶を楽しむ客室内の茶箱、茶杓デザインは佐村憲一氏が手掛けました。

ブランドプロデューサー	北山ひとみ（二期倶楽部創業者）
グラフィックデザイン	原 研哉
スイートヴィラ	坂 茂
レストラン・インテリアデザイン	株式会社エイジ（代表：佐藤一郎） 株式会社プラスニューオフィス一級建築士事務所（代表：瀬戸健似）
水庭	石上純也
施工	八光建設株式会社（代表取締役：宗像剛）
共同事業会社	株式会社タカラレーベン（代表取締役：島田和一） 株式会社ニキシモ（代表取締役：北山実優） 農業法人横沢ファーム

株式会社ニキシモと、株式会社タカラレーベンの 共同事業として展開

この「アートビオトープ」プロジェクトは、自然やアート、学びなどの文化活動をテーマにリゾート運営を手掛ける株式会社ニキシモが、2022年に創立50周年を迎えるにあたって、「幸せを考える。幸せを

つくる。」の企業ビジョンの下に人々の豊かな時間を創造し、新しいライフスタイルを提案することを目指す株式会社タカラレーベンとの共同事業として展開するものです。

株式会社ニキシモについて

株式会社ニキシモは、日本型ブティックリゾートである栃木県・那須の「二期倶楽部」オーナーにより2015年に設立。2018年には株式会社二期リゾートが手掛けていた事業を継承し、「アートビオトープ那須」を中心にホテル企画からホスピタリティ教育・文化事業などを展開します。また、2008年から開催してきたオープンカレッジ「山のシュール」、若手芸術家を支援するアーティスト・イン・レジデンス(AIR)等を通じ、文化・芸術活動を推進しています。

N I K I S S I M O

所在地	〒102-0074 東京都千代田区 九段南2-1-17 パークマンション 千鳥ヶ淵1階
設立	2015年6月
事業内容	ホテル企画・運営、その他ホスピタリティ教育・文化事業

株式会社タカラレーベンについて

「幸せを考える。幸せをつくる。」を企業ビジョン、「共に創造する」を企業ミッションに据え、自社企画新築分譲マンションをメインブランドに、賃貸事業、発電事業など数々の事業を展開。人と暮らしの幸せについて誰よりも真剣に考え、ひとつひとつの夢をかたちにした住まい作りを実現すること、そして地域、社会の幸せ、人について深く考え、すべての人が安心して暮らせる街作りに貢献し、地球にやさしい持続的な環境づくりを提案することを図る。



所在地	〒100-0005 東京都千代田区丸 の内 1-8-2 鉄鋼ビルディング 16F
設立	1972年9月
事業内容	自社ブランドマンション「レーベン」・「ネベル」シリーズ及び、一戸建新築分譲住宅の企画・開発・並びに販売、発電事業、ホテル事業、建替・再開発事業、海外での不動産販売事業 他
URL	https://www.leben.co.jp/

「アートビオトープ」概要

開業日	2020年10月2日
所在地	栃木県那須郡那須町高久乙道上2294-3
URL	https://www.artbiotop.jp/
客室数	スイートヴィラ15室 NEW (内ウィズドッグルーム2室、コネクティングルーム2室) レジデンス15室
レストラン	μ(35席) NEW
カフェ	Kantan(25席)
その他	水庭 陶芸スタジオ ガラススタジオ ホワイトリムジン
一般予約開始	2020年7月15日
客室料金	60,000円より (平日1泊2食・二名一室時の1名料金・税金サービス料別)
レストラン料金	ランチ 7,000円(税金サービス料別・水庭入場券含む) ディナー 14,000円(税金サービス料別・水庭入場券含む)

報道関係者からのお問い合わせ

株式会社ニキシモ

広報担当：村井孝行

電話 03-3221-4220 / FAX 03-3221-4230

メール murai@nikissimo.co.jp

アートビオトープ誕生までの経緯



二期倶楽部 本館

1986年、自然と共生する隠れ家「二期倶楽部」が自然を活かしたわずか6室の客室からスタート。建築家・渡辺明氏による、日本の伝統的な素材である大谷石や赤松を大胆に使った端正な建物は、デザイン界を中心に大きな話題となりました。二期倶楽部の「二期」には、お客様との出会いを大事にしたいという「一期一会より、一期二会へ」というリゾートの思想が込められています。「ホテルの機能性」と「日本のおもてなし」を兼ね備えたブティック型リゾートという、これまでにない小型宿泊施設が誕生。



メインダイニング「ラ・ブリーズ」

1997年、空間デザイナーである杉本貴志氏のデザインによる別館を増設。14室の客室に加え、バーをしつらえたレストラン棟も完成。畑からテーブルまでをコンセプトに自家菜園で無農薬栽培された食材など、「食」というメインコンセプトをより明快にアピールし、森の中の露天風呂、日本初のホテル併設型アロマトリートメントプロデュースは、二期倶楽部独自の滞在スタイルとして高く評価されました。



NIKI CLUB&SPA

2003年、同敷地内に「NIKI CLUB&SPA」オープン。テレンス・コンラン卿率いるコンラン&パートナーズのデザインにより、自然林を生かした緩やかな台地に、24室のコテージ、スパやアロマトリートメントルームを擁した長期滞在型スパリゾートが誕生。独立型ヴィラを持つ24の客室は、中庭を取り囲むように配置され、ゲスト同士がコミュニケーションを図れるように工夫されています。二期倶楽部の食の要素に“身・心”の健康というテーマが加わりました。



野外劇場「七石舞台 かがみ」

2006年、清水が沸き出る敷地内に、巨大な7つの巨石と鏡面ステンレスによる野外劇場「七石舞台 かがみ」が完成しました。松岡正剛氏のディレクションの下に、設計は内藤廣氏が手掛けたこの舞台は、屋根も柱もない、太古の石と現代のテクノロジーを使った鏡面ステンレスに空と木々が逆さまに映り込むユニークな舞台です。2008年から開催されているオープンカレッジ「山のシュレー」のメイン舞台としても使用されました。



ガラススタジオ

アートビオトープ レジデンス（旧「アートビオトープ那須」）は、同地区に創業した「二期倶楽部」（1986年～2017年）の創業20周年を記念した文化事業として、2007年にオープンしました。本格的な陶芸とガラスのスタジオを備えたこの施設では、国内外のアーティストの滞在制作を支援する「アーティスト・イン・レジデンス」プログラムを継続的に開催してきました。このほかにも



ホワイトリムジン



オープンカレッジ「山のシュレー」



水庭

板橋廣美、三輪和彦、小池頌子、中村錦平、中村卓夫、新里明士、川端健太郎など、日本を代表する現代工芸家のワークショップや、オープンカレッジ「山のシュレー」を2008年から毎年開催してきました。建築家・塚本由晴氏（アトリエ・ワン）によって設計されたホワイトリムジンは、屋台という仮設の場所を、新しい公共の場として中庭で開催されている週末のマルシェのシンボルとして運営されています。

2018年には、このアートビオトープレジデンスに隣接する敷地に「水庭」が誕生。人の叡智と自然の叡智とが交わる新しい建築を表現するランドアートには、完成以来多くの人々に訪問いただいています。元々の森林から水田、そして牧草地となったこの土地の記憶が、318本の木々と160個の池を、モザイクのように点在、再構成させることで建築家による「庭」が表現されています。この庭の設計は日本建築学会賞など多数の受賞歴を持つ建築家・石上純也氏。カルティエ現代美術財団の「石上純也 自由な建築」展（2018年パリ、2019年上海）においても紹介され、世界的に大きな注目を集めました。水庭は「COOL JAPAN AWARD 2019」（クールジャパン協議会）、「グッドデザイン2019」ベスト100を受賞したほか、水庭の成果により石上氏が芸術選奨文部科学大臣新人賞（2019年）、デンマークの新しい建築賞であるオベル賞（2019年）を受賞しました。オベル賞の選考に際しては、水庭は「建築の未来の道筋を再定義できる影響力のあるアイデア」と高く評価されました。